

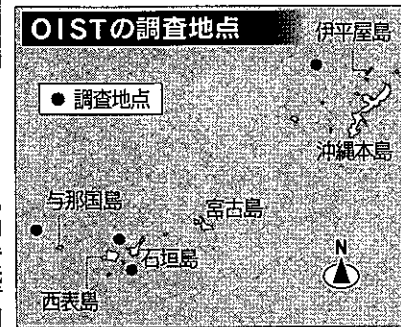
| | |
|-----|---|
| 日時 | 2011年 6月 7日 (火) |
| 新聞名 | <input type="checkbox"/> 琉球新報 (面) <input type="checkbox"/> 沖縄タイムス (面) <input type="checkbox"/> 日経新聞 <朝刊 (29面)・夕刊 (面)> <input type="checkbox"/> その他 () |
| 備考 | |

海洋生物の移動を調査

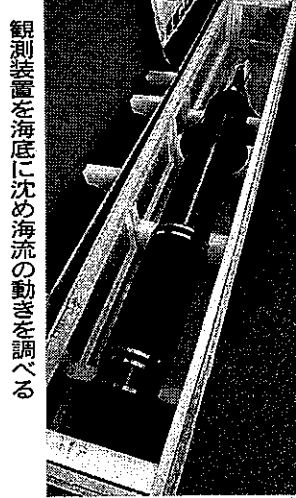
バイオ振興・環境保全期待

独立行政法人OIST

独立行政法人の沖縄科学技術研究基盤整備機構(OIST、沖縄県恩納村)などは、沖縄の深海に生息する海洋生物の移動パターンの調査を始めた。沖縄本島や八重山諸島周辺の海流によって貝類やカニなどの幼生がどこまで運ばれるかを調べる。海洋生物の分布を把握し、沖縄のバイオ産業振興や環境保全に役立てる。



に、珍しい海洋生物が数多く生息する熱水噴出域が複数あるとされる。一般に海洋生物は成長すると一定の場所で生息するようになるが、幼生期は海流で広い範囲に移動する。



観測装置を海底に沈め海流の動きを調べる

OISTの御手洗哲司博士の研究チームと、独立行政法人の海洋研究開発機構(神奈川県横須賀市)との共同研究。期間は3年を予定している。沖縄には、伊平屋島や与那国島周辺の深海など

パターンを予測する。亜熱帯気候の沖縄の海域には他地域にはない海洋生物が豊富に生息していると考えられる。地元のパイオ企業は新薬や健康食品の原料として着目。県も地理的優位性が生かせる分野としてバイオ産業の育成に力を入れる。今回、どこの場所にとついった海洋生物が集まりやすいかが分かれば、沖縄のバイオ産業の振興を後押しする公算が大きい。希少生物の保全に努める「海洋保護区」指定の参考にもなる。

OISTは2012年度に開学予定の沖縄科学技術大学院大学(恩納村)の準備機関。既に国内外から約180人の研究者が集まり、神経科学や環境・生態学など4分野で約30の先行研究が始まっている。

研究では熱水噴出域がある地点に観測装置を海底に沈め、季節や時間ごとの海流の動きや速度を調べる。さらに貝類やカニなど甲殻類の幼生、植物プランクトンなどを採取し、繁殖時期や成長するまでの期間を検証。これらの結果を組み合わせて様々な海洋生物の移動